

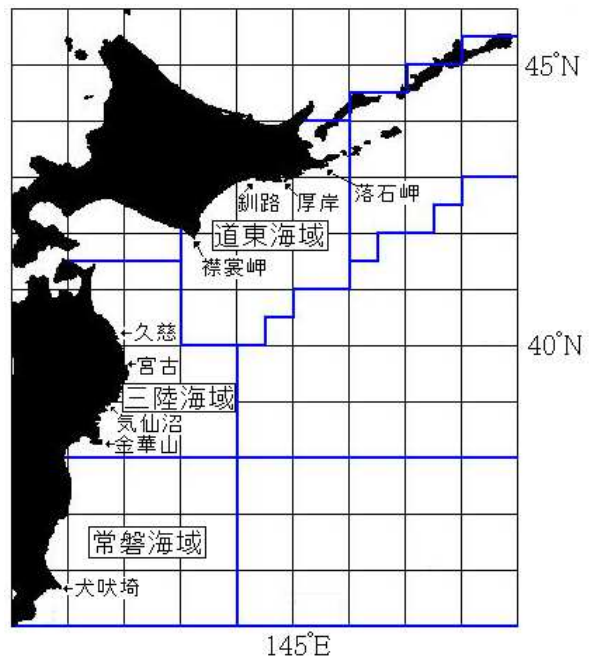
平成29年度 第4回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2017年10月中旬～11月下旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月中旬は減少して低位水準となる。
- ・三陸海域では、10月中旬は低位水準であるが増加する。
- ・常磐海域では、10月下旬になると、来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、松尾
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

平成29年度 第4回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2017年10月中旬から11月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

10月中旬は減少して低位水準となり、魚群の多くは道東海域内の南側を通る。10月下旬は低位水準で終漁となる。

(2) 漁場

道東海域では、10月中旬～下旬は落石～襟裳沖が漁場となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月中旬～下旬は低位水準であるが増加する。11月上旬～下旬は低位水準で減少する。

(2) 漁場

10月中旬～下旬は三陸北部～南部が漁場となる。11月上旬～下旬は三陸南部が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

10月下旬になると、低位水準ではあるが来遊がある。11月上旬は低位水準であるが増加する。11月中旬から減少する。

(2) 漁場

10月下旬は、常磐北部に漁場ができる可能性がある。11月上旬は常磐北部が、11月中旬～下旬は常磐北部～南部が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	低位減少			
	漁 場	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖			
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	低位増加	低位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	北部～南部	北部～南部	南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向		低位増加	低位増加	低位減少	低位減少
	漁 場		北部	北部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要（9月下旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年を下回る低位水準であった。道東海域よりも東側の花咲港東沖における来遊量の水準は、前年を下回る低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域よりも東～南東側における来遊量は、9月下旬の後半に増加した。

(2) 漁場

道東海域では、落石南～南南東沖に漁場が形成された。

落石南～南南東沖の110～140海里付近（15～16℃）では、大型船数隻と小型船数隻～30隻程度操業し、大型船で数トン～27トン程度漁獲した。

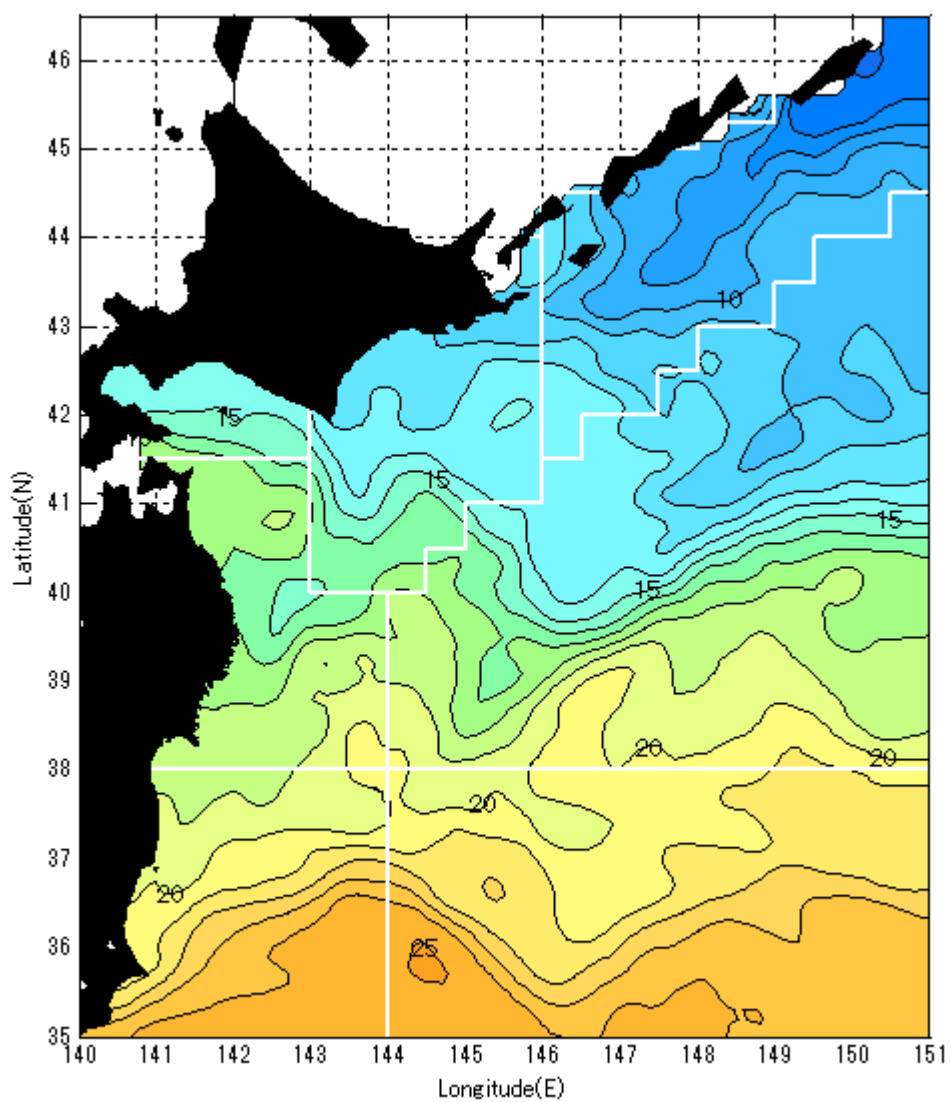
主漁場は、道東海域よりも東～南東側の、花咲港東南東沖の花咲港まで1日半程度かかる場所（14～17℃）と花咲港東～東南東沖の290～330海里付近（13～16℃）であった。

(3) 魚体

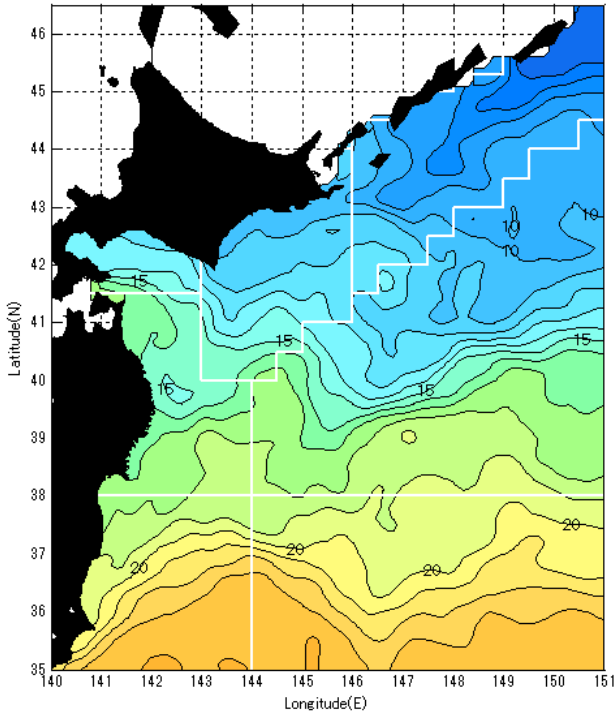
道東海域では、体長29～30cmモードと26cmモードであった。体長28cm以下は2～5割程度であった。体長29cm以上の魚の体重は100～120g台が主体。

4. 予測水温分布図

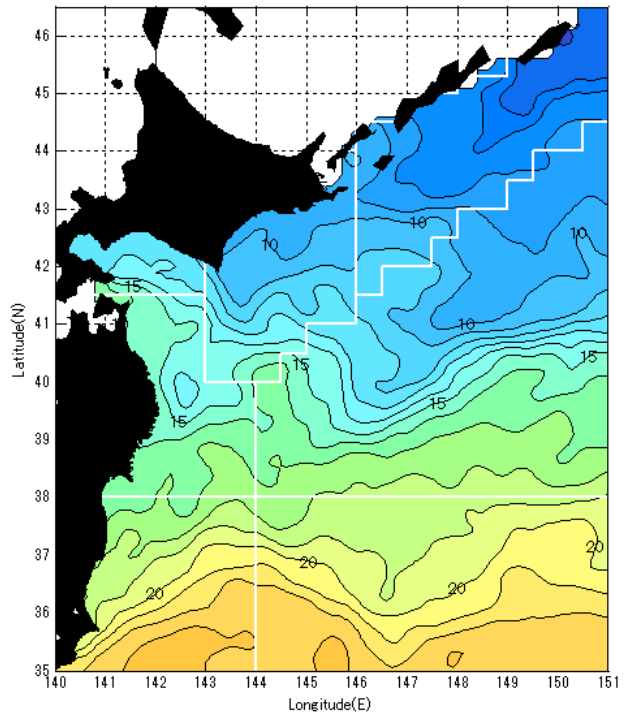
10月中旬予測表面水温分布図



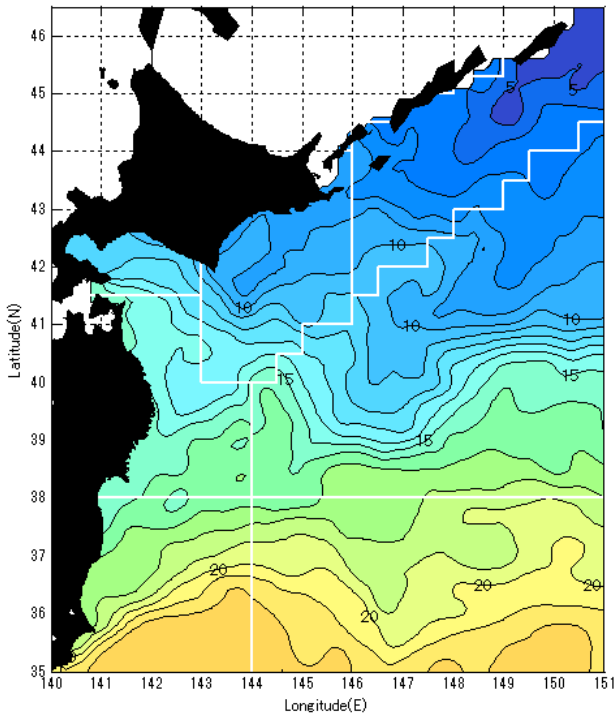
10月下旬予測表面水温分布図



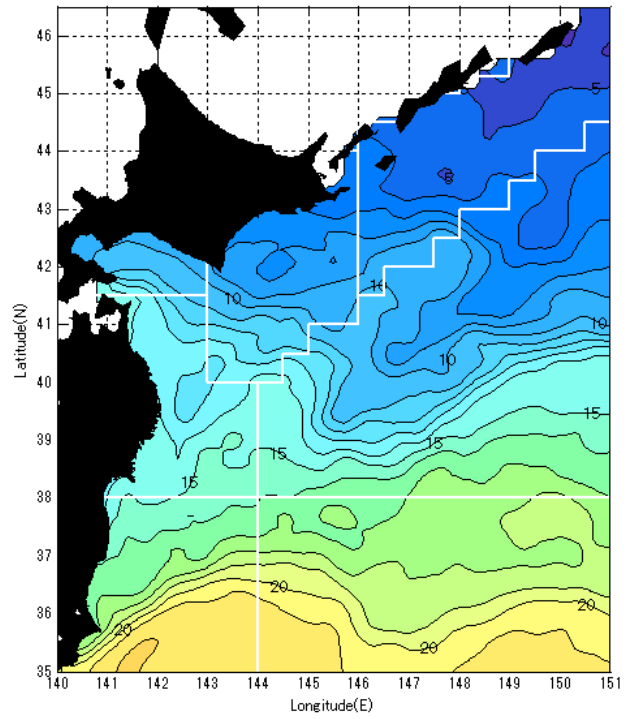
11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図



11月下旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	--